



「バレンタインデー」の由来と真実 発祥：イタリア



「バレンタインデー」の発祥はイタリアです。古代ローマでは、2月14日は女神 Juno (Jupiter の妻で、結婚・出産を司り、夫婦や国家の守護神とされる最高の女神) の祝日で、翌15日から春の訪れや豊穡を祝うルペルカーリア祭が開催されていました。この祭には、女性たちが前日(2月14日)に入れた名札を男性が翌日引き、その二人はお祭りの期間中カップルとして振舞えるという風習があり、そのまま恋に落ちて結婚するカップルも多かったそうです。

ところが、皇帝クラウディウス2世がローマ帝国の兵士の士気が落ちることを懸念し、兵士の結婚を禁じてしまいます。そんな若者たちを哀れんだバレンチノ司祭が、恋に落ちた兵士と娘を密かに結婚させるようになりました。当時キリスト教を迫害していた皇帝は怒り、バレンチノ司祭にキリスト教を捨てるよう迫りますが、司祭がそれを聞き入れなかったため、見せしめとして269年(あるいは270年?)2月14日にバレンチノ司祭を処刑してしまいます。その後、496年にルペルカーリア祭が廃止されると、2月14日がキリスト教の殉教者・バレンチノ司祭を祀る記念日となり、恋人たちが愛を確かめ合う日になりました。バレンタインはバレンチノの英語読みです。こうして、恋人達が愛を確かめ合う日として世界各国に広がったのがバレンタインデーです。

日本における「バレンタイン」の歴史を調べてみると、1936年、神戸モロゾフ洋菓子店がバレンタインチョコレートの広告を出し、恋人に贈り物をする日として宣伝をしましたが、定着しませんでした。1958年、メリーチョコレートが新宿の伊勢丹デパートでバレンタイン・キャンペーンを開催し、女性から男性へチョコレートを贈ることを提案します。なぜ女性から男性へなのか?それは主な買い物客が女性であることや、その頃の日本はアメリカのウーマン・リブ運動の影響を受け、女性が恋愛の主導権を握ろうというムードがあったから。1970年代、日本チョコレート・ココア協会が2月14日を「チョコレートの日」に制定し、流通業界もバレンタインデーのチョコレート商戦に力を入れ、やがて70年代後半にはバレンタインデーが定着しはじめ、現在に至っています。

こうしてみると、日本のバレンタインデーは、外国文化を日本流に巧みにアレンジし、自国の文化に昇華させていることがわかります。チョコレートやギフト市場の拡大もすごいものですが、バレンタインデーによって女性の恋愛行動力が高まったのは事実です。さらに愛情の対象が広範囲になり、バレンタインデーの裾野が広がっています。また、男性から女性へという動きが加わっているのも注目すべき点です。バレンタインデーは、愛する人に「愛しています」と伝える日。その気持ちをどう表現するかは人それぞれですが、大切な人たちにその気持ちを伝えてみると、素敵なエッセンスになるでしょう。

♥ Happy Birthday 2/13・太田 一弘先生